

氏名	小野田 太 郎
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 107 号
学位授与の日付	昭和40年 3 月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	リウマチに関する臨床的研究
論文審査委員	教授 児玉 俊夫 教授 田中 早苗 教授 砂田 輝武

学 位 論 文 内 容 要 旨

関節リウマチにおける足の病変は非常に特異的かつ一般的であるにもかかわらず、統計および病態機構の探究が比較的少ない。

昭和38年1月より昭和39年3月までの間に岡大整形外科外来を訪れたリウマチ足患者103人182足を対象としてリウマチ足の変形を臨床的、X線的に調査し、そのメカニズムの研究を行った。

足に病変を有する関節リウマチ患者は56%といままで考えられていた以上に頻度が高い。さらに足関節の病変の最も強い部位は内果、外果の前部および後部であり、ショパール関節がそれに続いており、外反扁平足の主因となっている。

リウマチ足の代表的変形は後足部外反、扁平足、外反母指ならびに槌状足指であり、それらの発生機構はリウマチによる滑膜の炎症から始まり、それに伴って関節囊、関節構成靭帯および筋の弱体化をきたし、さらに静力学的、運動力学的要素が加って決定的変形が生ずる。

リウマチ手とリウマチ足との差異は局所の炎症、解剖学的要素だけではなく、足はこれに重力の問題が加味されている。機能障害の面でも、足は骨障害や変形の割に訴えは少ない。

欧米人と日本人のリウマチの違いは生活様式に多分に左右される。日本人では変形が日常生活に多少の不便さはあっても機能障害は少ない。

論文審査の結果の要旨

慢性関節リウマチは手指から始まるものが多く、またその変形も目立つのでそれらに関する多くの研究がある。これに反して足に関する研究は少い。小野田は岡大整形外科にあるリウマチクリニックに通院する患者の足について臨床的研究を行った。その結果は

1. 慢性関節リウマチで足になんらかの訴えを持つものが56%あり、また疼痛の初発部位が足にあったものが39%と手について多い。
2. 足の諸種の変形とその成因を分析した。
3. 足関節滑膜の病理組織学的検索をした。
4. 足部の変形は欧米とわが国との患者の間で大差ないのに疼痛はわが国の方が遙かに少い変形の矯正手術を希望する患者は欧米では多いがわが国では皆無に近いその理由として日本人のかかる患者の歩行は Stamp 様で足の反りがなくてすむことと、履物がサンダル式で周囲からの庄迫のないことを挙げた。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。